



生涯を通じた取り組みの推進 食育の実践の環を広げよう

平成28年3月に「第3次食育推進基本計画」が公表されました。「食育」と言いつつ、子ども達のためと思いがちですが、生涯を通じて取り組みが推進されています。今回の計画では、食を取り巻く社会環境や生活環境の変化、健康課題を考慮し、5つの重点課題を柱に取り組みが示されています。

重点課題1…若い世代を中心とした食育の推進

現在、子どもの朝食欠食率は4.4%、若い世代は24.7%。人間ドックの指導時にも朝

食生活を健康状態は密接な関係があり、生活習慣病の予防や改善のために、適正体重の維持、減塩、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる、よく噛んで食べるなどが目標です。

重点課題4…食の循環や環境を意識した食育の推進

現在、日本における食品ロスや年間約632万トンの推計され、1人1日茶碗1杯分の食料を廃棄している計算になります。わが国の食料自給率は39%（平成27年度力パワーベース）で、大半を輸入に頼る

食を欠食している人は夜遅い飲食の習慣も多く、生活習慣病を有するケースが多いように感じます。将来を担う若い世代にこそ、食に対する意識を高め、健全な食生活を実践して欲しいものです。

重点課題2…多様な暮らしに対応した食育の推進

少子高齢化、単独世帯やひとり親世帯の増加に伴い、食を通じたコミュニケーションや食体験の機会が減っていることとされ、家族や知人と食事を共にする「共食」の増加や食体験の場の提供が目標となっています。

重点課題3…健康長寿の延伸につながる食育の推進

食生活と健康状態は密接な関係があり、生活習慣病の予防や改善のために、適正体重の維持、減塩、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる、よく噛んで食べるなどが目標です。

傍ら、食物を大量に捨てています。今こそ食に対する感謝の気持ちをもち、生産から消費までの一連の流れを理解し、食品ロス削減の行動が広がることを期待しています。

重点課題5…食文化の継承に向けた食育の推進

平成25年「和食・日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、自然を尊ぶ日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が評価を受けました。伝統的な食文化こそ健康長寿の生活に他なりません。季節や行事と密接に関わり、多彩な食材を用い、栄養バランスにも優れた和食の継承を推進していきたいものです。

今回の計画の新たなコンセプトは、食育の「実践」の環を広げようです。皆さん、1万人の食チエック事業に参加していただきます。これも食育の取り組みのひとつです。食育の環が広がり、人々が心身ともに豊かな食生活を実践できることを、栄養士として切に願っています。

管理栄養士 笠毛 郁江

第51回予防医学技術研究会議開催

研究成果の共有と技術の向上を目指して 全国から250人の医療従事者が集う

「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマとし、2月23日・24日に、第51回予防医学技術研究会議および関連会議が広島県医師会館で開催されました。平成28年度は、当協会と公益財団法人予防医学事業中央会が主催となり、開催準備には約2年をかけた。当日は全国から延べ250人の医師、臨床検査技師、診療放射線技師、保健師、看護師が集まり、日頃の研究成果の発表と最新の医療・検査技術や知見、技術の向上や業務の改善に関する情報の共有が行われました。

開会式は、当協会理事長佐藤均のあいさつ

ではじまり、本年度の学術賞(児玉賞)の表彰式が執り行われました。教育講演では「疾病予防と制御における健診・検診の役割について」と題し、広島大学大学院医歯薬保健学研究大学院学・疾病制御学教授田中純子氏が講演を行いました。

研究発表は、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんなどの検査技術、健診技術、健康支援や保健指導のほか、メンタルヘルス、顧客満足や業務改善など多岐にわたる、23部門91題の講演発表が行われました。当協会からは、検査技

術、健診技術、胸部検査、メンタルヘルス、健康支援、環境検査、業務改善の部門から10題の発表が行われたほか、3つの部門で職員が座長を務めました。

フォーラムディスプレイ「新しい健康増進事業の構築」では、当協会の管理栄養士である笠毛郁江(健康増進課長)を含む3人のパネリストが中心となり、活発な意見交換が行われました。

当協会の発表については、5月号で紹介いたします。

(健康科学センター)

「第3次食育推進基本計画」啓発リーフレットを合わせてご確認ください
http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/dai3_kihon_keikaku.html

平成28年度公衛協ブロック会議

公衛協ブロック会議を、次のとおり開催します。申込みや詳細については、各市町公衛協事務局へお問い合わせください。

■主な内容

- 平成29年度地域活動支援センター事業計画について
- 平成29年度全県共通事業重点メニューについて
- 平成29年度環境・健康募金事業のすすめ方
- 事業に向けた意向調査 ほか

■日時・会場 全会場とも10:00~15:00

- 西部・呉ブロック 3月15日(水)
広島県公衆衛生会館6階講堂(広島市)
- 福山・尾三ブロック 3月16日(木)
環境保健協会東部支所3階大会議室(福山市)
- 北部ブロック 3月17日(金)
みよしまちづくりセンター1階集会室(三次市)

■対象 市町公衆衛生推進協議会関係者 など

平成28年度 地区衛生組織活動資金募集

通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成28年度で57回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)

56,031,759

(平成29年2月10日現在)

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,557,450	90.6
海田町	2,399,179	94.9
熊野町	1,433,640	100.9
坂元町	374,100	107.7
江田島市	1,854,150	99.0
竹原市	1,679,900	97.6
大崎上島町	341,000	99.5
大竹市	2,536,362	100.0
廿日市市	3,255,752	95.9
廿日市市大野	2,527,300	99.7
廿日市市佐伯	409,321	101.7
廿日市市吉和	53,000	83.6
廿日市市宮島	203,605	97.5
安芸太田町	755,050	99.5

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	1,094,700	97.8
安芸高田市	2,077,700	96.8
東広島市	4,484,643	100.8
三原市	1,768,220	98.3
世羅町	905,050	95.5
尾道市	4,021,000	89.5
福山市	8,784,194	96.2
府中市	1,096,726	100.3
神石高原町	290,200	90.0
三次市	1,975,752	81.1
庄原市	2,332,900	95.6
呉市	7,765,653	97.3
その他	55,212	82.5
合計	56,031,759	96.1

募金の使途(事務費配分金) (例)

- ・募金事業のPR用ポスターやチラシ、募金袋などの作成費
- ・振り込み手数料

(公衛協から募金委員会に振り込む際) など

ポスター
チラシ(A3、A4)
募金袋(大、小)

市町別一覧表

※この表は、平成29年2月10日までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。